「道の駅」を拠点とした シーニックバイウェイの活動

釧路湿原を蛇行して流れる釧路川
（釧路湿原エリア）

朝焼けに輝く阿寒湖
（阿寒湖エリア）

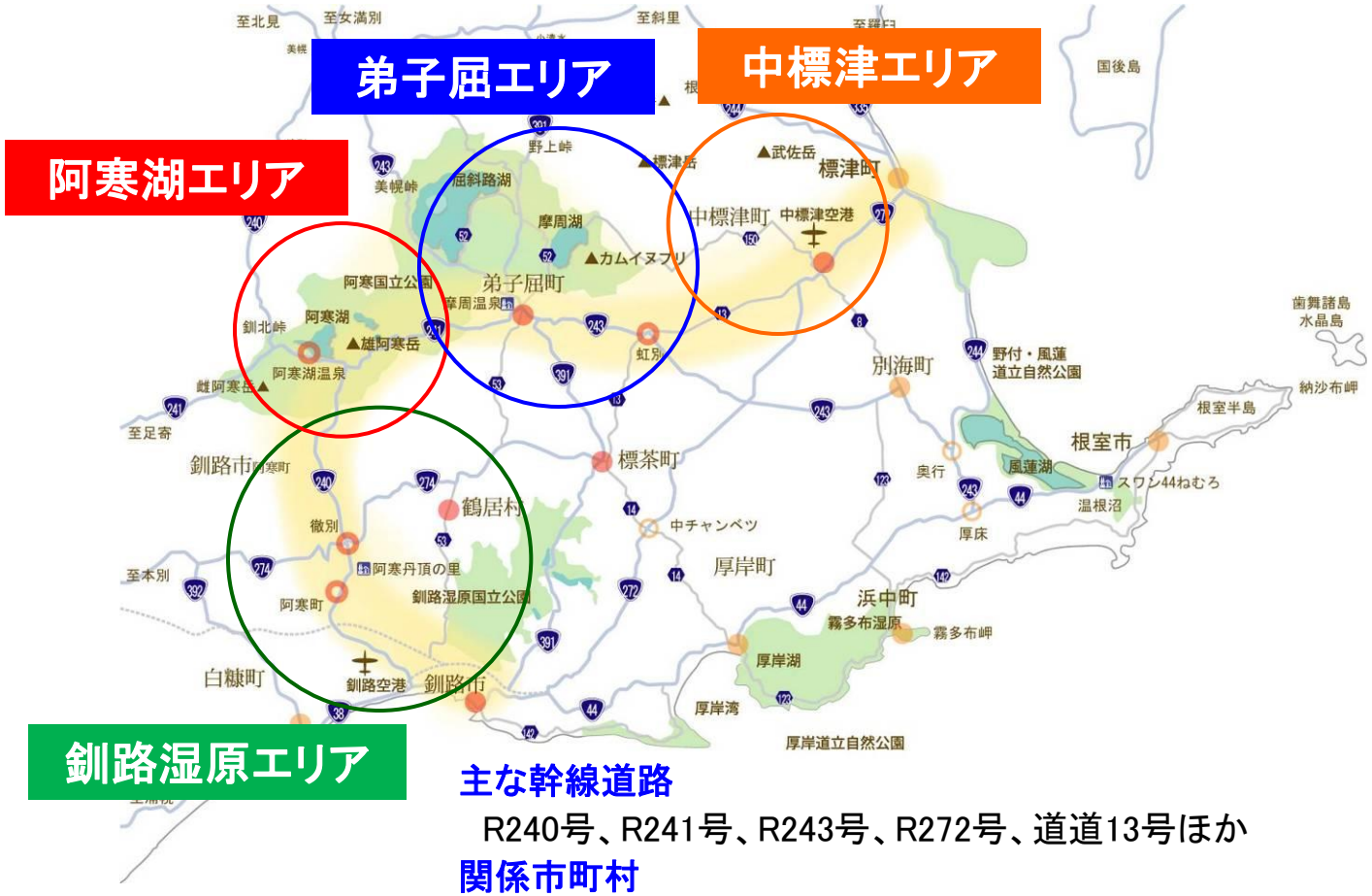
全面結氷した神秘の湖、
摩周湖（弟子屈エリア）

人工衛星からも確認できる
格子状防風林（中標津エリア）

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

Clear Stream Scenic Byway

神秘的で優れた自然のあり様を五感で感じるダイナミックルート



主な幹線道路

R240号、R241号、R243号、R272号、道道13号ほか

関係市町村

釧路市、標茶町、弟子屈町、中標津町、鶴居村、別海町

活動団体数　15団体

- ４つのエリアで構成（釧路湿原・阿寒湖・弟子屈・中標津）
- 釧路湿原国立公園、阿寒国立公園などの地域の代表的な観光地を含む
- 軸となるルートはたんちょう釧路空港から、根室中標津空港に至る幹線道路周辺

クリーンウォーク活動の実施

【概　　要】自治体が主催しているゴミ拾い活動に参加するとともに、ルート独自でも、クリーンウォークとしてルート上の駐車帯でのゴミ拾い活動を実施している。駐車帯によって、ゴミの多い駐車帯と少ない駐車帯があったことから、今年度はゴミを捨てられやすい駐車帯の把握と対策実験を実施した。

【日　　時】自治体のゴミ拾い活動（毎年5月ごろ）、ルートのゴミ拾い（毎年8月）

【主　　催】景観まちづくり部会

【参加人数】自治体の活動：ルートで約30名が参加、ルートのゴミ拾い：約20名が参加

そららの森（弟子屈飛行場跡地）での植樹会

【概　　要】そららの森（弟子屈飛行場跡地）での植樹活動を継続的に実施している。
地域の子供達や障がい者とともに、飛行場跡地の植樹活動を通じて、カーボンオフセットのシーニックの森づくりを行っている。また、平成28年度からは国道沿いの並木づくりも開始。継続的な森づくりには維持、管理の経費も必要となることから、タンブラーなどのルートオリジナルグッズの販売を行い、売上金の一部をそららの森の苗木代、維持管理費として活用している。

【日　　時】毎年10月に実施

【場　　所】そららの森（弟子屈町飛行場跡地：一般国道241号沿い）

【主　　催】景観まちづくり部会 、シーニックカフェプロジェクト

【参加人数】約80名

北海道開発局と協働で作成した観光客向けマップの配布

【概　　要】地域情報面を釧路湿原・阿寒・摩周SBWが担当し、注意喚起のためのヒヤリハットマップ面を釧路開発建設部が担当して、協働で作成した道東エンジョイマップを道の駅や空港、レンタカー会社などで配布している。地域情報面には、好評だった移動距離・時間マップやビギナーズドライブマップの情報のほか、地域で活躍する女性に焦点をあてた「イキイキScenic Woman」も連載しており好評である。また、外国人観光客のレンタカー利用の増加もあり、現在は、英語版、繁体字版も作成している。

【配布状況】夏期、秋期、冬期で3回発行（合計で約2万部発行）

【主　　催】情報広報部会、釧路開発建設部

夏期版の道東エンジョイマップ（日本語版）

冬期版道東エンジョイマップ（左：英語版、右：繁体字版）

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ上の道の駅

道の駅 阿寒丹頂の里

道の駅とシーニックカフェが連携したスタンプラリーの実施

【概要】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイのシーニックカフェと釧路・根室管内の道の駅、たんちょう釧路空港、根室中標津空港が連携しておこなっているスタンプラリー。平成21年度から開始して、今年度で8年目の活動。

【日時】平成28年度実施期間（平成28年4月29日～平成28年10月31日）

【主催】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 観光交流部会

シーニックカフェとは？

シーニックカフェは地元ならではの魅力を味わえるカフェです。釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイでは、平成19年度からカフェミーティングを開いて、様々な活動を行っています。

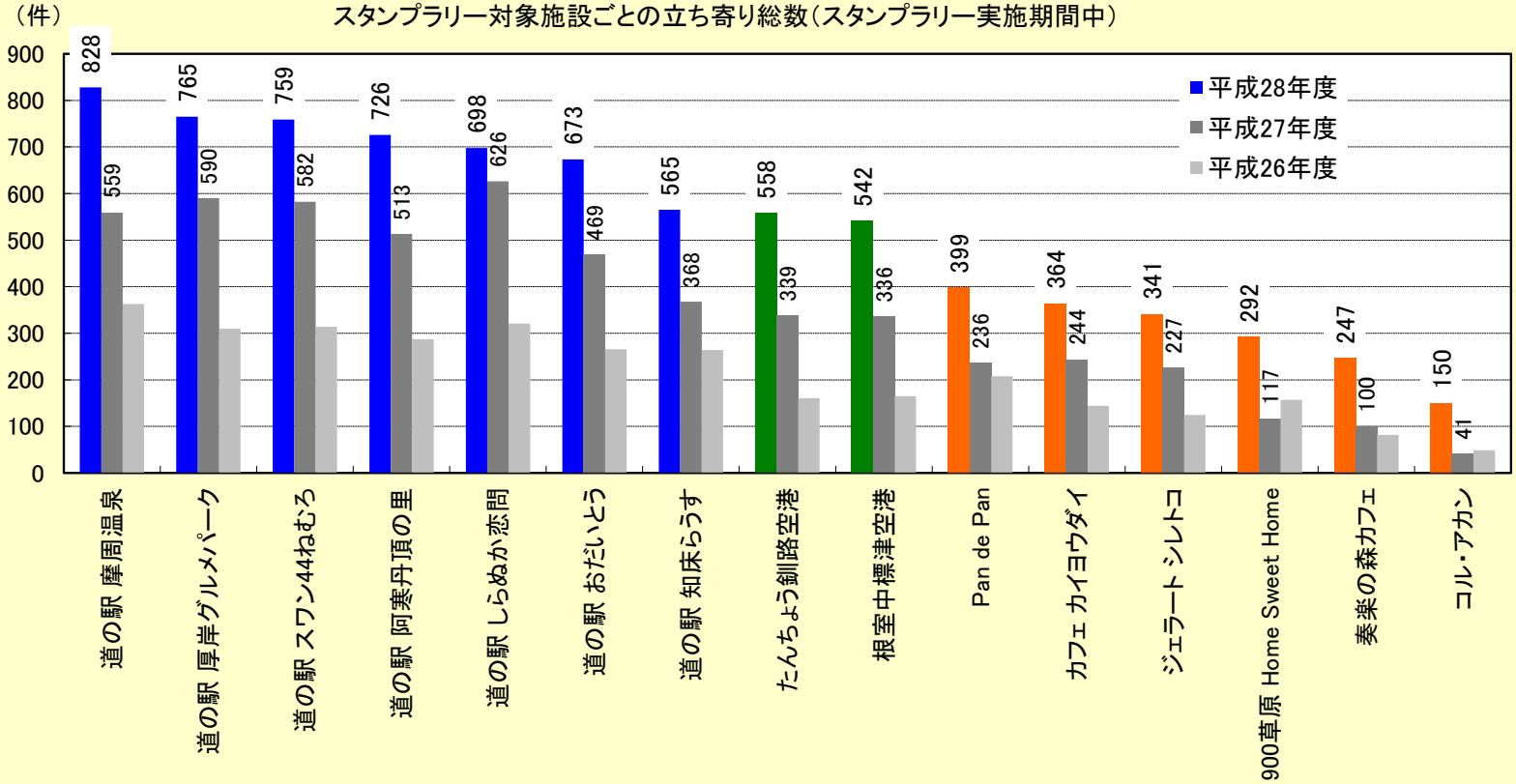
シーニックカフェの想い

・この地域が大好きになる、とっておきの情報をお伝えします
・地域の“おいしい”をお届けします
・ゆったりと過ごせる空間でお迎えします

笑顔で明るいシーニックカフェ一同

≪効果≫道の駅とシーニックカフェが連携したスタンプラリーの実施

	平成28年度	（前年比）		平成27年度	平成26年度
スタンプラリーの応募総数	1069人	（126%）	26%増	851人	540件
対象施設への立ち寄り総数	7,903件	（148%）	48%増	5,347件	3,216件
シーニックカフェへの立ち寄り総数	1793件	（186%）	86%増	965件	765件



道の駅の効果：シーニックカフェに立ち寄った人の道の駅への誘導

SBWの効果：道の駅に立ち寄った人のシーニックカフェへの誘導

≪効果≫道の駅からのプレゼントの提供でさらに活性化

道の駅の効果：道の駅で販売している地域名産品のPR

SBWの効果：道の駅からの景品提供による、ラリーの継続的な実施

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ上の道の駅

道の駅 阿寒丹頂の里

道の駅でのイベントへの積極的な参加と協力

【概要】釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの管内においては、平成28年3月に道東自動車道が開通し、道の駅においてイベントが開催された。また、平成28年10月には、道の駅連絡会の総会・シンポジウムが弟子屈町で開催された。このようなイベントに、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイとして、積極的に参加、協力することで、お互いの連携を深めている。

【日時】平成28年3月12日：道東自動車道 阿寒IC開通に合わせたイベントへの参加
平成28年10月12日：道の駅連絡会総会における賑わいづくりへの協力

【場所】道の駅阿寒丹頂の里ほか

阿寒IC開通イベント

道の駅連絡会 総会

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ上の道の駅

道の駅 摩周温泉

道の駅摩周温泉での夜間滞在者への調査

【概要】道の駅摩周温泉では、車中泊による夜間滞在者が非常に多くなっており、自治体、道路管理者、道の駅としても現状を定量的に把握するとともに、その対策を検討する必要があった。そこで、釧路湿原・阿寒・摩周SBWでは、夜間滞在者の現状やニーズを把握する調査を道路管理者、道の駅と連携して実施した。

【日時】平成26年度（8月、9月）、平成27年度（8月、9月）

【場所】道の駅摩周温泉

【調査方法】

1．ナンバープレート調査

●調査主体：釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 弟子屈エリア

●実施方法：8月のお盆時期、9月の連休に、駐車車両のナンバープレートを記録
→ 夜間滞在している車両の台数と、車両の種類、登録地域を把握

◎メリット：道の駅の至近距離に居住しており、長期的に調査が可能

2．ヒアリング調査

●調査主体：釧路開発建設部

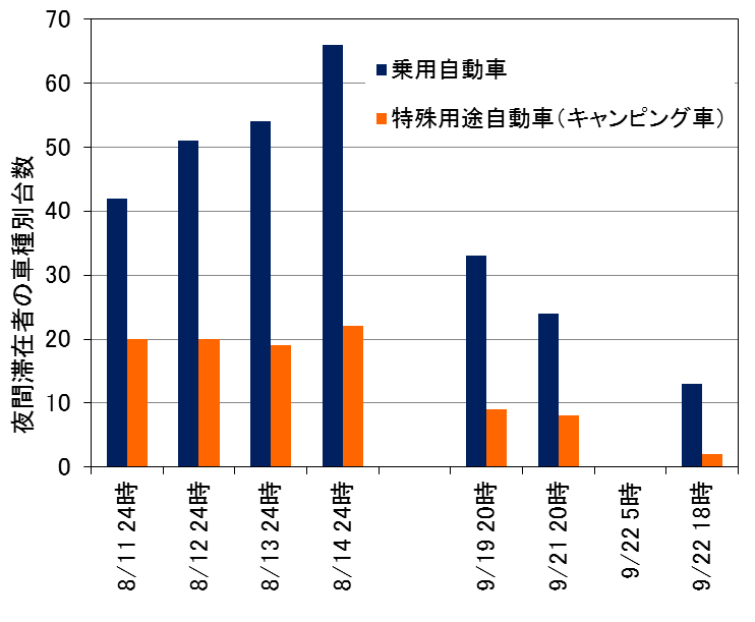
●実施方法：8月のお盆時期、9月の連休に、夜間滞在者にアンケート調査を実施
→ 夜間滞在者の滞在理由、道の駅や地域へのニーズを把握

◎メリット：ヒアリング調査については、トラブルなども避けるため、地域住民ではなく、ヒアリング調査に精通した担当者による実施が適切

調査結果についての情報を交換し、結果を共有

≪効果≫道の駅摩周温泉での夜間滞在者への調査

	収容台数（一般車両）	平成27年度調査								平成26年度	
		8月11日		8月12日		8月13日		8月14日		8月14日	
		台数	収容率	台数	収容率	台数	収容率	台数	収容率	台数	収容率
第一駐車場	33台	38台	115%	43台	130%	44台	133%	59台	179%	53台	161%
第二駐車場	35台	36台	103%	37台	106%	36台	103%	39台	111%	43台	123%
合計	68台	74台	109%	80台	118%	80台	118%	98台	144%	96台	141%

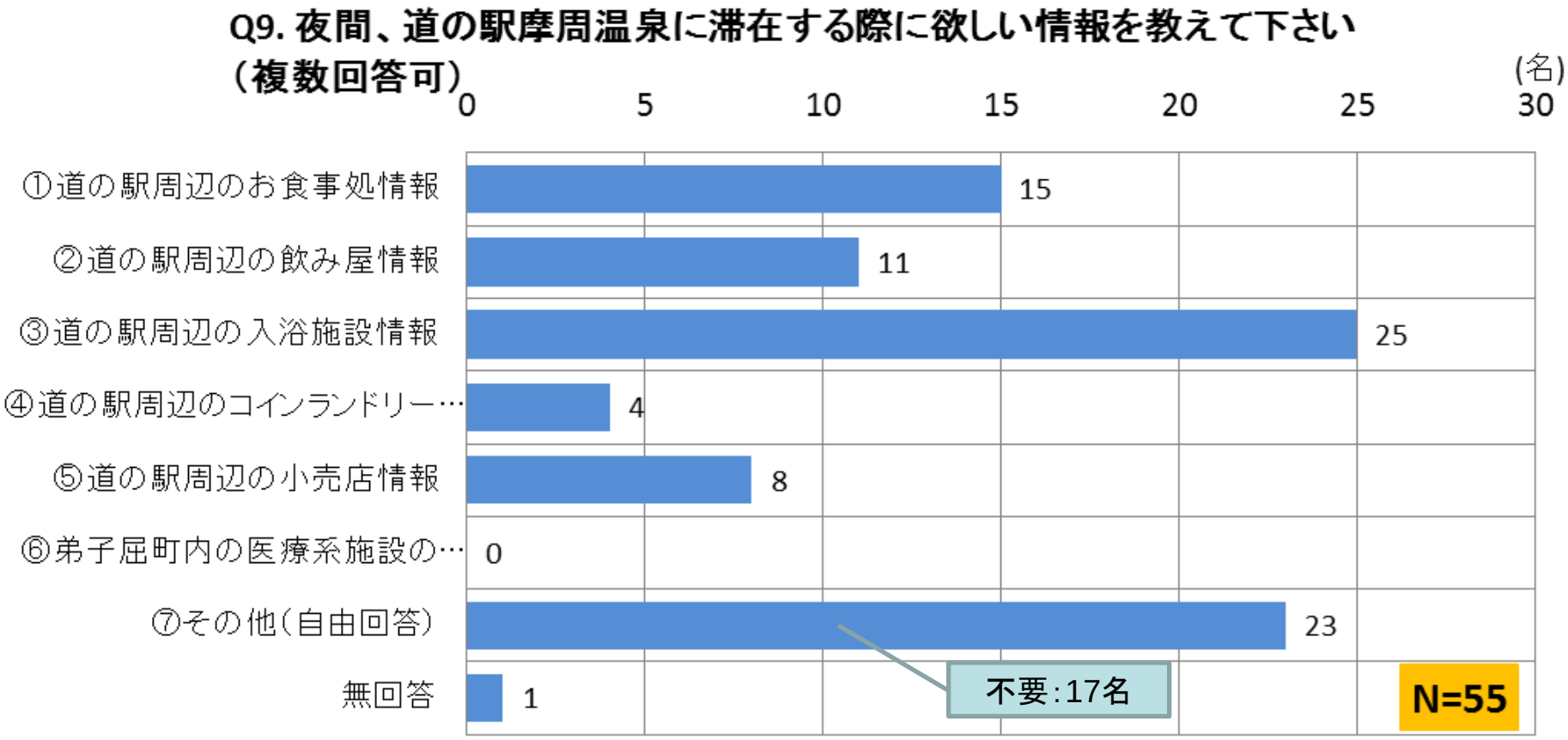


道の駅の効果：夜間滞在車、滞在者の実状、ニーズを把握

道路管理者の効果：夜間滞在車の交通安全面の課題の把握

SBWの効果：地域を活性化する上での夜間滞在者ニーズの把握

≪効果≫道の駅摩周温泉での夜間滞在者への調査

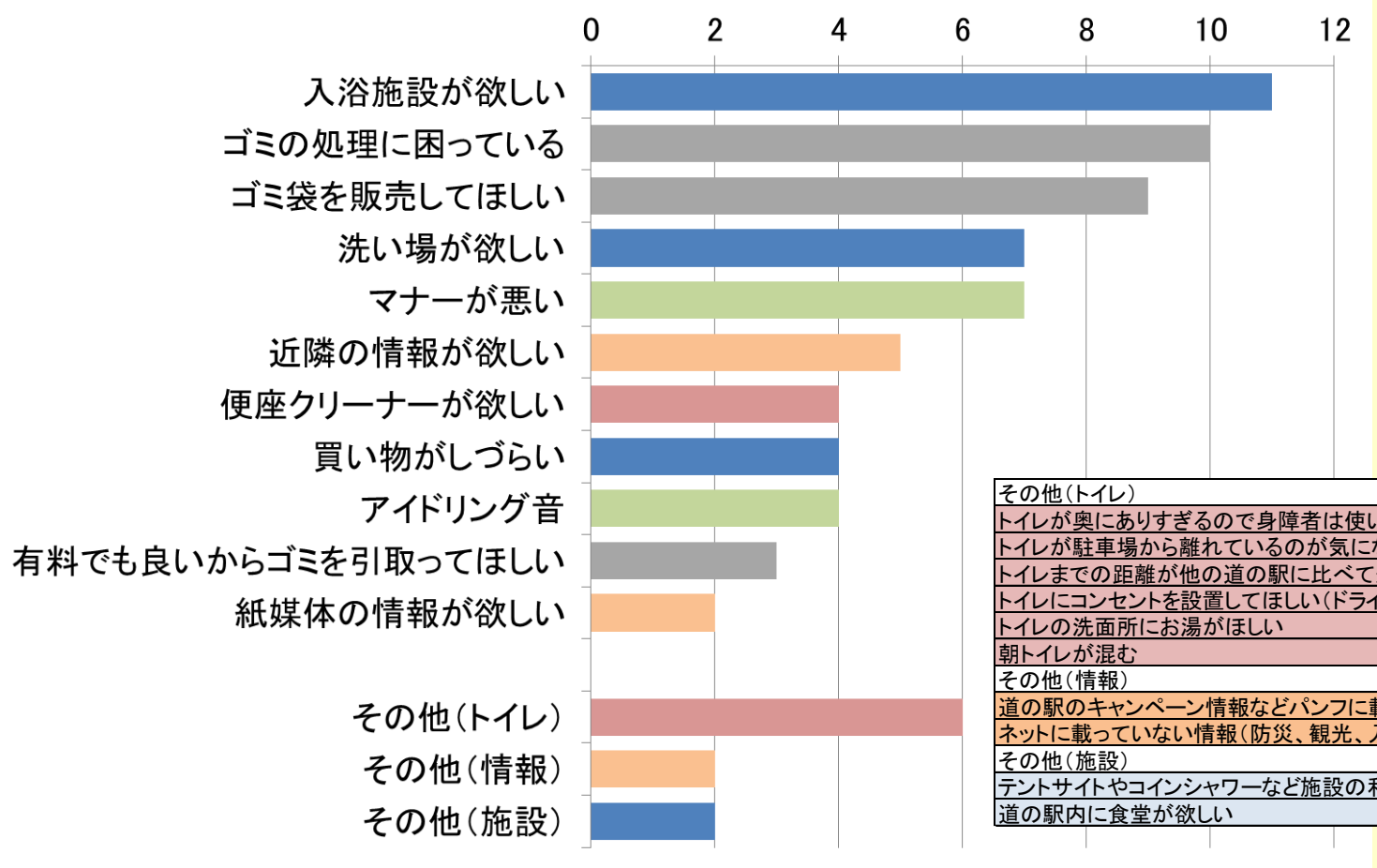


≪夜間、道の駅摩周温泉に滞在する際に欲しい情報≫

■最も多かったのは「道の駅周辺の入浴施設情報」

■道の駅周辺の飲食店情報へのニーズもあった

≪効果≫道の駅摩周温泉での夜間滞在者への調査



その他（トイレ）
トイレが奥にありすぎるので身障者は使いにくのではないか
トイレが駐車場から離れているのが気になる
トイレまでの距離が他の道の駅に比べて遠い
トイレにコンセントを設置してほしい（ドライヤーなど使いたいので）
トイレの洗面所にお湯がほしい
朝トイレが混む
その他（情報）
道の駅のキャンペーン情報などパンフに載っていない情報を知らせてほしい
ネットに載っていない情報（防災、観光、入浴など）がほしい。
その他（施設）
テントサイトやコインシャワーなど施設の利便性を高めてほしい
道の駅内に食堂が欲しい

≪道の駅摩周温泉に滞在する上で、困っていること≫

■最も多かったのは「入浴施設が欲しい」という要望

■全体的には、ゴミに関係する意見、要望が多い

道の駅摩周温泉での滞在者への情報提供実験

【概要】道の駅摩周温泉での夜間滞在者への調査を踏まえると、入浴施設へのニーズが高いことがわかった。道の駅にすぐに入浴施設を併設することは難しく、情報提供によって少しでも道の駅利用者の満足度を上げるための工夫を行うとともに、地域の活性化に向けて、道の駅利用者の地域への誘導についての調査を行った。

【日時】平成28年度（8月）

【場所】道の駅摩周温泉

【調査方法】

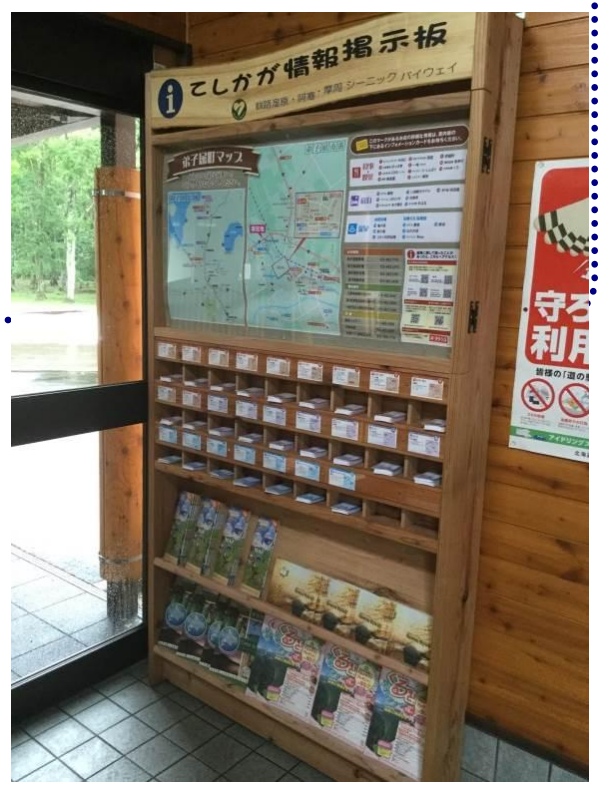
①道の駅において夜間も情報を提供できる情報板の設置

②提供情報の利用状況の調査（協働調査）

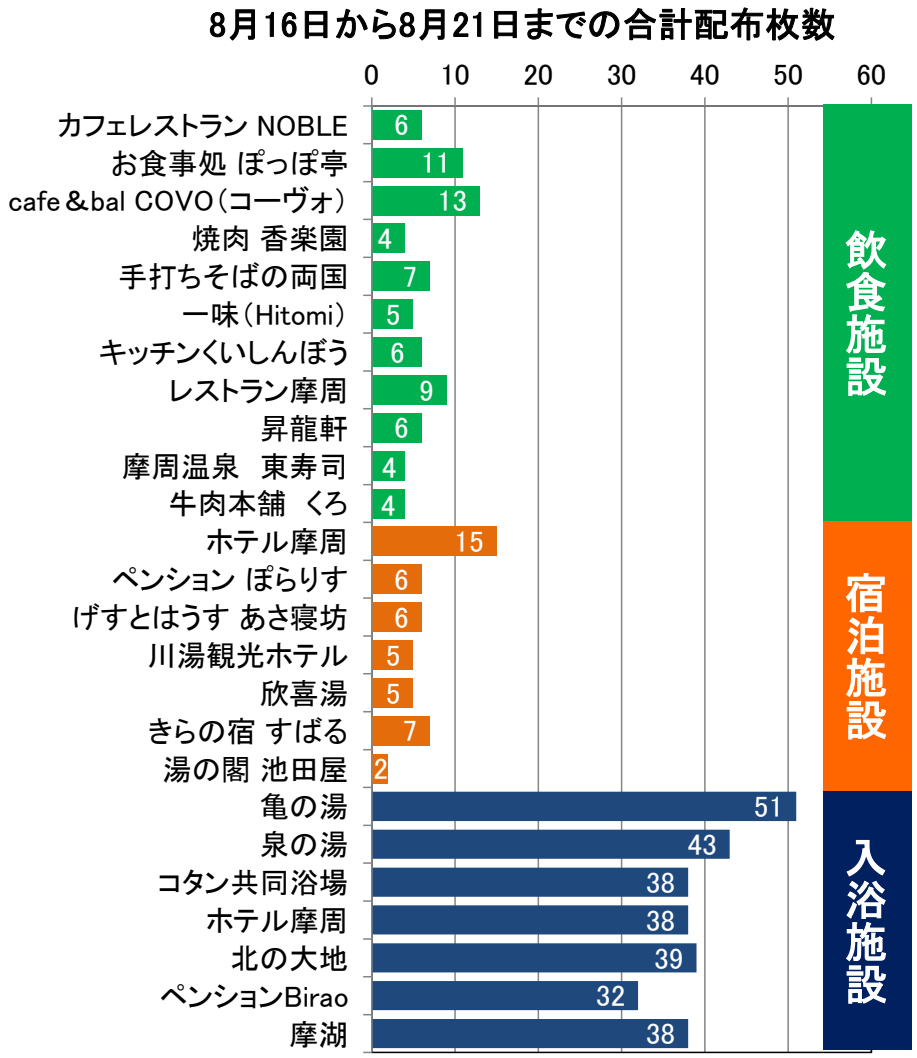
・情報ニーズ調査：名刺大のインフォメーションカード

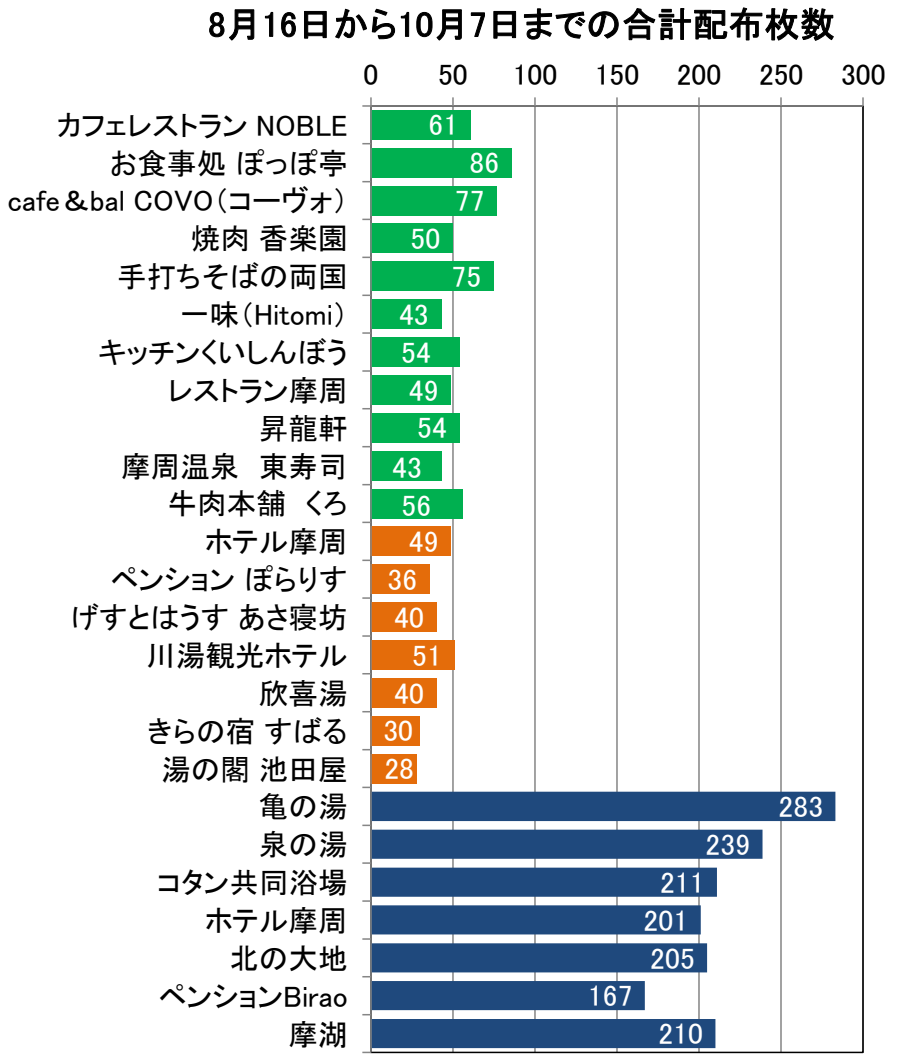
定期的な利用枚数（減少枚数）調査

③調査結果の評価・分析



≪効果≫道の駅摩周温泉での夜間滞在者への調査





≪インフォメーションカードの減少状況≫

■道の駅周辺の入浴施設の情報へのニーズが圧倒的に高い

道の駅とルートが
互いにwin-winになる意識

釧路湿原を蛇行して流れる釧路川
（釧路湿原エリア）

朝焼けに輝く阿寒湖
（阿寒湖エリア）

全面結氷した神秘の湖、
摩周湖（弟子屈エリア）

人工衛星からも確認できる
格子状防風林（中標津エリア）

ご清聴、誠にありがとうございました！